

## 二歳から五歳まで

醫學博士 巴 陵 宣 裕

### 一 心理的な要求

草木や野菜を育てるには、それぞれの草木、野菜が要求するところの土地、日光、温度、栄養、空気などを十分に且つ適當に供給してやる必要があります。人間の幼児を育てる時にも、これと同じように、各時期のそれぞれの幼児が實際に要求して居るものを充分に且つ適當に與えてやる必要があります。ところが、これまでの幼児教育に於いては、幼児の要求する事柄は、幼児が實際に要求して居るものによつて指導されずして、成人達が皮相的に考へて居る意見や、成人の便宜に従つて指導されてきたのでありません。

このことは、幼児の人格の發達にとつて甚だ面白くないこととであります。發達しつゝある幼児の生理的要求のことに就いては、我が國でも醫學者は勿論家庭の両親たちが、相當の知識を以てこれを善處するように努力して居ますが、發育しつゝある幼児の心理的要求のことになる、充分な知識が未

だ一般に充分に普及して居りません。

### 二 行動の動學

・ 要求とは、どんなものかということ先ず考へてみましよう。一般に、生物というものは、どんな生物でもそれが生きて居る限り、絶えずその環境と交互作用を營んで居るものであります。生物は絶えず、その環境に働きかけて居り、環境とのこのような交互作用に置かれて居る生物がその生命を維持し、その個體を發育成長させて行くために是非、満足せよとするとする内部の衝動が發つてあります。それが即ち、こゝで言う要求なのであります。そしてこのような要求は、生物の行動となつて現われてきます。人間の幼児の場合もこの例外ではあり得ないのであつて、殊に、幼児では、それが發育の途中にあるといふ事實によつて、その要求するものは非常に特異な形態を帯びて居るのであります。

- (一) 何故に或る幼児は引込み思案となるか。  
(二) 何故に或る幼児は攻撃的となるか。

(三) 何故に或る幼児は破壊的となるか。

(四) 何故に或る幼児は發動性を缺いて居るか。

幼児のこのような問題を考へる際、これまででは、これらは、主にその幼児の生れつき即ち先天的な素質によるものだという考へが支配的でありました。しかし、よく檢べてみると、これは、主に、發育とともに變化して行く幼児の要求が巧みに處理され得ないで居るために生ずる環境に對する幼児の調整失調であるということが明かとなつてきたのであります。それ故に、幼児の養育、教育には、人間行動の動學を理解することが必要になつてきます。

(一) 或る一定の年齢には、どのやうな行動が特徴的であるか。

(二) どのような環境の因子が、幼児の自然的健康的な發育を促進させ、また、妨げて居るか。

(三) 一般に幼児の行動は、どのような基礎的な要求に基いて居るものであるか。

このようなことに關する深い知識と洞察とを持つことは、幼児教育者や一般の両親たちには是非必要になつてくるのであります。

## 三 一、三才はたゞ過程だけに

### 興味

そこで先ず、どのような行動が幼児の各年齢期に於いて特

徴的であるかをみてみましょう。これによつて、幼児の發育の標準が大體判るのであります。

幼児は、生後の第一ケ年間を通じて、新らしく目覺めてくる感覺によつて、周圍の世界に反應してきます。彼等はこの年齢期に、何んでもかんでも色々な物に接觸して、味わい、嗅ぐことを欲します。二年乃至三年までの幼児が人の仲間のなかへ入つてくる様子を見て居りますと、彼等は目にとまる總べてのものを手でさわり、もてあそぼうと欲します。それは、堅いものでも柔かいものでも區別がありません。また、總べてのものを自分に携へることを欲します。人形、木片、粘土、織物の切れ、紙の切れなどを自分の身に携へてゐることを欲します。このように、ものをもてあそび、それを携へて歩くというのが二・三歳の幼児の特徴であります。また、この年齢期の幼児の遊びをみて居りますと、幼児は人形のきれいな衣服を剃いで、古い汚れた衣服で人形を包むようなことをいたします。それを見て、成人が「あなたは、何故きれいな着物で人形を包まないのですか……」ときいても、この質問には幼児は無關心であります。この期の幼児には人形の着物そのものには興味が無いのであつて、彼に興味あるのは、人形とその着物とをもてあそぶということだけなのであります。この期の幼児が砂遊び、粘土遊び、木片遊びをして、それは遊びの過程だけに興味があるのであつて、遊びの對象、遊びの結果出來てくるものには、何等關心がないのであります。だから、彼等が人形をこわしたり、繪具や鉛筆で大

きな面に、むちや、書きをしたりしても、それを干渉したり、それに成人の考えで暗示を興えたりしないがいいのであります。たゞ彼等のこうした興味と行動に親切さを示してやればいいのであります。次に、幼児がこの期よりも少し、生長しますと、その行動に協調さが現れるようになり、たゞは木片遊びをしても、それを積み重ねて家を作つたと思つたり、また、人形遊びをしても、人形をベットに入れたり、ベットから坐蒲團の上に移したりするというような、或る程度の統一のある行動をするようになります。

このような傾向がだん／＼と進むと、遊びの過程よりも遊びの結果生じてくるもの、即ち行動の效果に興味の重點が移つてくるのであります。大體三歳乃至四歳の幼児にこのような現象がみられます。

#### 四 四、五才になるに劇化に興

##### 味を持つようになる

幼児がもう少し生長して、次の段階に入ると、木片で自動車や汽車をつくつて、自分がその運転手や汽關手になつたや、人形遊びをして家をつくつて、その家のお父さんになつたり、お医者さんになつたりするというようになります。即ち、遊びに劇化が生じてきます。

これは、四・五歳の幼児からみられます。このように、遊びに劇化が生ずると、彼等の考えを遊びに移す遊び仲間が是

非必要になつてきます。遊び仲間がゲーム(競技)をするのは、もつと年齢が進まないときできません。少くとも、六歳近くならないときできません。ゲームも最初は鬼ごつこのような非組織的なゲームでありますが、練習や熟練を要する組織的なゲームは、もつと年齢が進まねばできません。以上述べました幼児の行動の進化を要約しますと、次の四階段があるということになります。

(一) 感覚的で手なぶりをする時期——この時期では、自分の周囲のものを何でもはめたり、嗅いでみたり、手なぶりにみわたる。

(二) 遊び、行動のプロセスだけに興味を持つ時期。

(三) 遊び、行動の結果效果に興味が生じてくる時期。

(四) 行動に劇化が生じてくる時期。

二歳から六歳までの幼児の行動の發育は大體以上の四つの階段に區別することができます。

#### 五 社會的の發育

充分に自由な、よく整備した環境の下に育つた幼児では、二歳の年齢では、人に親みやすく、人の前で自意識の強くないものであります。二歳——二・五歳では、幼児は個人としての自己を自覺し、且つ、自己と他人との關係を自覺して居ります。この時期では、新しい人や新しい經驗から尻り込みするという特徴を持つて居ります。次いで漸次、自己主張的になつてきます。これは彼を重壓するように思われる世界

の中で自己を維持しようとしてとめるからでありまして、成人は、この時期の幼児を屢々『強情で我儘で、行儀が悪』と思ふのであります。全く二——五歳の時期の幼児の75%は抵抗的、否定的の性格を表わすものであります。しかし、これは、世界の中で自己を維持して行かうとする健康な徴候であります。また二——三歳頃の幼児がグループの中に居るのを見てみますと、彼は、自分自身の興味だけを追うて、他の幼児には興味を持ちません。

この頃では、他の幼児と遊ばず、物を相手にして遊んで居りまして、大部分の時間を自分獨りで遊んで居ります。五歳頃になつても、自分獨りで遊び、自分だけの興味を追うて居ることが多いのであります。

## 六 各時期の年齢の幼児の行動 に就いて正しい觀念を持つ て居ることが必要である

成人があまり多くのことを幼児に求めると、幼児は抵抗的、否定的になり、神経過敏になつてきます。勿論いろいろと個人差はありますが、各時間の年齢の幼児の要求、行動は次のようなものであります。

### 二一 歳

(一) じきに泣く

(二) 寢床をぬらす

(三) 親指を吸う

(四) 食物の好き嫌が多い

成人は、この時期の幼児のこのような特徴をたゞ叱ります。これは、全くよくありません。この時期の幼児は、まだ肉體的、情緒的の統整や、言葉の統整を獲得しようとする途中なのであります。それで屢々寢床をぬらしたり、食物をたべさせて貰うことを欲したり、食物を拒絶したり親指を吸つたりいたします。

もう一つ、この時期の幼児の特徴は、行動に兩極性がみられるといふことでもあります。二——三・五歳の幼児は、實體の積極的時期とでも言いますか、彼は周囲のものを探検するに従つて彼自身の能力が非常な明確さを以て發達して行きます。この新しい且つ急速な機能の發育の時期に屢々對稱的或は兩極的な行動を同時に現わします。たとへば、物を分配することを拒絶したり、反對に、ごく氣輕るに、物を分配したりするようなことがよくあります。この現象は他の年齢期よりもこの時期に最も屢々現われます。また、危険にとび込んだり、反對に危険をひどく恐れたりすることが屢々あります。バスに乗ることをひどく恐れたり、街へ出ることをひどく恐れたりするようなことは、この時の幼児に非常に屢々あります。新しい食物に尻り込みするようなことも屢々あります。二——四歳の幼児は一般に、食事の時に、ぐずぐずして長い時間がかかるのであります。

二一三歳の幼児に、日常生活上、期待できる習慣

(一) パンツ・ズボンを引き上げたり、引き下げたりする。

(二) 衣服のボタンをはめたり、はずしたりすることに興味を持つ。

(三) 上衣の腕の通るところが充分に大きければ、自分で通す。

(四) 靴下や靴を自分でぬぐ

(五) 手を洗つたり、拭つたりすることを手傳う。

(六) 歯をみがく手傳いをする事が出来る。

一三三歳一

三——四歳の時期は、はつきりと新しい能力を出現させることの少い時期であります。この時期は、むしろ、前時期に出現した運動機能の統整が始まり、又言葉の能力を完成させる時期であります。周囲を元氣に飛びはねたり、大聲でしゃべつたり、笑つたりすることがこの時期の最も特徴的な習慣であります。

また、三——五歳頃は、自分でものごとをすることを喜び、それを反覆することを喜ぶ時期であります。何んでも自分の獨力でものごとをしようとする時期です。即ち、自力に對する心理的要求の強く出現してくる時期であります。ですから、この時期の幼児を取扱うには、この自力を許

してそれを勇氣づけることが大切であります。高いスベリ臺を勇敢に滑り下りたりすることに強い興味を持つ時期であります。

二三歳の幼児の日常生活に期待できる習慣

(一) ボタンとボタンの穴が大きく且つ適當な場所にあれば、ボタンをはめたり、はずしたりすることが出来る。

(二) パンツやレギンス・靴などは、適當な指導をさえ與えれば、自分などでつける事が出来る。

(三) 手を洗つて拭う事が出来る。

(四) 歯をみがく事が出来る。

一四歳一

この年齢期では、言葉が重要さを帯びてきます。即ち、四歳になりますと、幼児は全く異つた線に沿うて積極的な實驗をやるようになるのでありまして、この時期では、實驗は運動機能、肉體的な活動よりも、むしろ、言葉や社會的接觸のことになつてきます。四歳の幼児の言葉は、すでに他人に影響を與え、他人を支配する有效な道具となつてきます。

四歳になると他人を批判しまた他人の注意と賞讃とを求めようになつてきます。

この時期のもう一つの特徴は、つくりごと、世界と眞の世界とを屢々混同するといふことであります。四歳の時期では、

事實を誤り傳えたり、空想的な物語りをするのは、この期の幼児が或る特殊な目的を獲得するために言葉を道具として使用していることを示すものであり、また、つくりごとのあそびを試みていることを示すものであります。また、この期の幼児が未だ非現實の世界と現實の世界との區別が明確にできないことを示しているのであります。成人は、これをうそをついたとか、だましたとか言つて責めてはなりません。むしろ、眞實と非現實との區別をつかむように助けてやるべきであります。

これに關聯して、この時期を取扱う上に特に注意すべきことは、おとぎ話や怪談のようなものをこの期の幼児にきかせることは全く有害だということであり、つくりごとの童話やおとぎ話は、幼児の心理が現實の世界に根をおろすまで聞かせるべきではありません。成人は屢々この期までの幼児に童話やおとぎ話をして、それで幼児を樂ませ、また、よく教育して居るように思つて居るものですが、これは大きな誤りであります。たゞ幼児の頭をかき亂して居るにすぎません。更に、もう一つこの期の幼児の特徴は、四歳の終りから五歳頃になると、リズムのある音や言葉のつゞり遊びをするということ、よく、この期の幼児は仲間と一緒になつて、同音や類似音の言葉をくり返えし反復し合つて笑つたり、忍び笑ひをして樂んで居ることがあります。

この期は全く、言葉に興味を持ち、言葉の發達する時期でありますから、成人はこの能力の發達をさまざまに指導

することを忘れてはなりません。

もう一つ、先に述べましたように、この期は劇化した遊びに興味を持つ時期であります。

#### 四歳の幼児に期待できる日常生活の習慣

- (一) 着物が單純で充分な大きさのものでさえあれば、獨りで着たり脱いだりすることが出来る。
- (二) 顔や手を洗つたり着物の泥を洗つたり乾かしたり、頭髮に櫛をあてたり、齒にブラッシュをかけたたりすることが出来るが、なほ或程度これには、手助けを要する。

#### 一五 歳一

これまでの各年齢期に比べると、五歳の時は發育や變化の速度の遅い時期であります。幼児はこの期からだんだんと社會性の度を増してきて、グループの計畫に自分自身をよく適應させる能力が生じてきます。また、注意の持続時間が長くなつてくるので、比較的長時間の努力と興味を持続を要するグループの遊びや計畫について行くことができるようになります。

五歳頃の幼児は三歳の幼児のところと述べたと同じように全く新しいことを實驗するということがよりも、むしろ、既に獲得した技巧や運動機能を更に改良し、仕上げて行かうする傾向にある時期であります。こゝで、幼児の注意の持続時間のことを少し述べて置きたいのですが、〔一一頁へつゞく〕

な自發活動の起ることを熱望したい。

新教育の再發足と共に幼児教育制度も新發足了。吾々は理想を實現する爲に今を知らねばならない。今を知ることがは幼児の心身の發育の程度と幼児その者を知らねばならぬ。春の陽だまりの様な暖さと伸びやかさと安全感に満ちた環境を思いつく、未だ混沌と社會不安が続いている社會を直視しつつ、冷靜に私達の行くべき道を選ばねばならぬであらう。

幼児の爲の春を迎えるに當つて、私共として感激に堪えないことは、學校教育法に幼稚園が規定される様になつた蔭にあつて、親切に種々御指導下さり、或時は自ら筆をとつて何呉れとなく助成して呉れた連合軍總司令部民間情報教育局の顧問ヘフマン博士の御厚意である。

先生はカルホニヤ州の初等教育局長であつた。先生の子等に對する愛情の豊さとその識見の深さは吾々を敬服させずにはおかないものがある。先生は日本的性格と傳統の尊ばれるべきことや、日本本來の文化財の活用等のことを指摘されることについても大きな反省と、文化國家の建設の爲には日本人自身が立ち上らねばならないことの感慨とを深く感じさせることが屢々である。

今迄いつも願られない乍ら、常に求めて精進されて居た幼児教育關係者のあの眞摯さを今更の様に思い起しつつ、新しい制度をきつと内容づけ、充實して行つて呉れるであらうことを信じ乍ら、今私は春の空を貫く様な自然の生命の營みの

清新なたくましさで打たれ、胸滿つるものを感じつつ筆を擱く。(昭和二十二年四月)

「一九頁からつゞく」

これ迄の觀察では二歳位の幼児の、一つの物事に對する注意持續時間は、その對象物によつて、かなりの差異がありますが、大體二・五分から五分位のものであります。それが五歳位になりますと、その約二倍の長さになります。

「五歳の幼児に期待できる日常生活上の習慣」

- (一) 五歳までに、よく看視されてきた幼児であれば、日常生活の自分の身の仕末のことは殆んど總べて自分でできるよになつては居るものである。
- (二) 彼等は、自分で、顔や手を洗ひ、齒にブラッシュをあてようと自らの發意で着手する。
- (三) 頭髮に櫛をあて、また、靴紐を結んだりすることは未だ獨りではできない。手助けを要する。